

あいこも新聞

第5号

2011年6月

e-mail: aiyama-jimu@miyagifukusikai.or.jp

宮城福祉会 共生型グループホーム
あいやまこもれびの家
村田町大字村田字相山100-5
0224-82-2366

利用状況(6/3)			
	定員	現在の利用者	待機者
認知	9名	9名	0名
障害	5名	5名	0名

お気軽にお問い合わせを!

ごあいさつ

未曾有の震災から3ヶ月が過ぎようとしています。翌日、東北沿岸部を襲った大津波の映像を見たときは、本当に信じられない思いでした。被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げます。村田町でも、道路や家屋などに様々な被害がありました。被災地の方々はもちろん、あいこものご家族、関係機関の皆様もまだまだ、ご苦労やご心配が続いていることと思います。どうぞお体に気をつけて共に乗り越えていきましょう。



東日本大震災、その時・・・

地震が起こった14時46分は、午後のお茶の時間の前で、ほとんどの方が食堂にいらっしゃいました。突然の大きな揺れに、職員も利用者様も、一瞬固まってしまいましたが、すぐに、職員がテラス戸を開けて利用者様の頭を座布団や自分の体で覆い、「大丈夫ですよ！すぐおさまりますからね！」と、大きな声をあげました。

ところが、揺れはなかなかおさまらず、さらに大きくなってきました。(これは、ただ事ではないぞ!)と皆さんの表情が変わってきました。

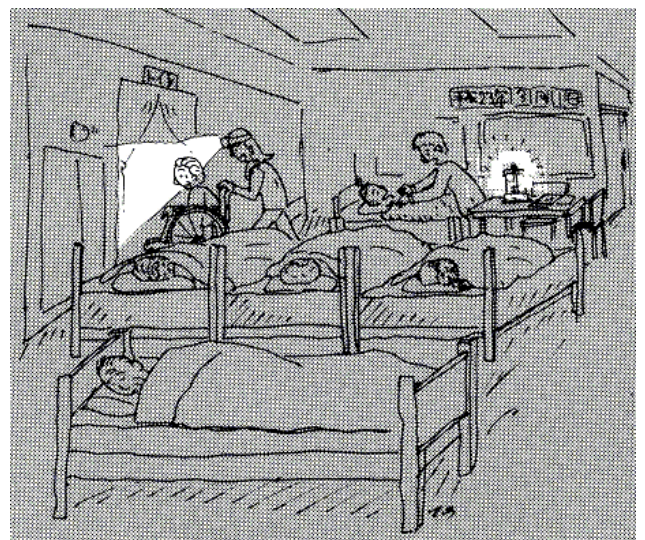
その時、たまたま、あいやまこもれびの家の事務所で同じ共生型ホームの管理者の方々が集まって会議をしていました。地震と同時に、他ホームの管理者の皆さん、事務所から飛び出して、自分のホームのように、あいこもの利用者様の側にサツとついて、手を握ったり、肩を抱いてくれました。ホームは違えど、同じ思いで利用者様と関わっている仲間の姿に本当に心強さを感じました。

電気・水道・ガス・電話

揺れがやっとおさまって、家内を見ると、台所の食器が落ちて割れたり、古いテレビが落ちたりしましたが、利用者様、職員とも、誰も怪我がないことを確認し一安心。

その後も、断続的に余震が続きましたので、いつでも避難出来るように、利用者様全員に、一ヶ所に集まっていただきました。皆さん「長く生きてっけど、こんな大きな揺れは初めてだな。」「宮城県沖地震来るって聞いてたけど、今のがそれだべか?」と、青い顔で話し合っています。

すぐに停電になってしまいましたので、今後の対応について皆で話し合い、全員分のベッドや布団を食堂に運び、皆と一緒に寝ることにしました。皆さんに、その事を伝えると、たいがいの事は、「大丈夫だあ～！そんなに心配しなくても!」と、どしりと構えている、あいこもの利用者様も、さすがに「今晚はそうした方が安心だ。」と、真顔でうなずいていました。



徐々にみなさん、それぞれのご家族や家の事が心配になってきました。電話が通じない中、可能な限り御家族の状況を調べて、全員の家と家族が無事である旨を紙に書き、壁に貼りました。それを見て、やっと皆さん安心したようです。

普段、物忘れがあるご高齢の皆さんも、あまりに大きな出来事だったのか、「地震が起きたことによって、不便な生活が続いている」という記憶は、ずっと維持していたようです。「長く生きてけど、こんな大きな揺れは初めてだな。まだ、余震来るべか？」と、心配そうな表情で話していましたが、いつもと違う状況にも不平不満を口にする方は一人もなく、厳しい時代を乗り越えてきたお年寄りの忍耐力と謙虚な気持ちには、頭が下がる思いでした。当日の夜から、余震が続く暗い中でも皆さんが少しでも不安なく過ごせるように 必ず複数の職員が泊り込むようにしました。

ここまでではないけれど、昔も同じような事があってね。子供達連れて村田の公民館に避難して泊まった事があったんだよ。でも、私達は戦争を経験しているからね。耐える事には慣れているんだよ。戦時中を思い出しちゃうね。

そうなんですか……



食事

地域の方々の力に支えられて・・・

地震のせいだから仕方ないですね。大丈夫です。我慢できます。

職場は大丈夫かな・・・



長く続いた停電は、照明はもとより、調理や暖房など、全てに影響しました。まずは、目の前の課題が食事でした。普段から余裕を持って発注している食材を集めても、2, 3日分。米は十分にありましたが、炊飯器が使えないので、簡易ガスコンロを使ってご飯を炊いたり、老人保健施設あいやまの管理栄養士大宮さんが届けてくれた備蓄分の缶詰の白かゆなど、大事な食材を工夫して使いながら、皆さんに少しずつ召し上がっていただきました。若いいっくんや、あっちゃんには特に厳しい状況でした。

その状況を、救ってくださったのが、普段からお世話になっている、高橋八百屋さん、吉田肉屋さん、小石川魚屋さんでした。

「おばあちゃん達、困ってるんじゃないかと思って・・・」と、すぐに様子を見に来てくれました。連日の報道でも聞く厳しい物流の状況から考えて、食材の手配は今後どうしたらいいのかと、頭を痛めていた私達スタッフには、まるで、神様のように見えました。

高橋八百屋さん

今は、これしかないけど、何とか、しのいで！

充分ですー！



吉田肉屋さん

あったかい おかずを食べれるだけでも幸せです！

メニューは限られてるけど、おかず毎日届けるよ！



小石川魚屋さん

停電でムダになる
ところでした！
助かります！

大丈夫！まかせて！

冷凍庫の中の
食材も預ってや
るよ！

後日、感謝の気持ちを込めて、お世話にな
った皆さんに、利用者様と職員から
「感謝状」を、贈らせて いただきました。

様々な状況が困難
な中、あいやまこも
れびの家利用者の
安全安心の為に……

よって心より
感謝の意を
表し……



スーツが
似合う
ようさん

給水支援

蛇口の下に手を差し出せば自動蛇口から、水はいくらでも
出るもんだと思い込んでいた私達でした。

「昔は、井戸水汲みに行かされたもんだった。」と、よくお年
寄りから聞かされてはいましたが、水が出ない状況が、ホー
ムにとってどれほど大変な事か、痛感させられました。

施設の給水タンクへも、村田町の支援で補充していただくこ
とが出来ましたが、その他にも、地域の方がきれいな沢の水
を軽トラックで運んで下さったり、また、いっくんやあっちゃん
が、公民館の給水所で、水汲みを手伝ってくれたりしました。



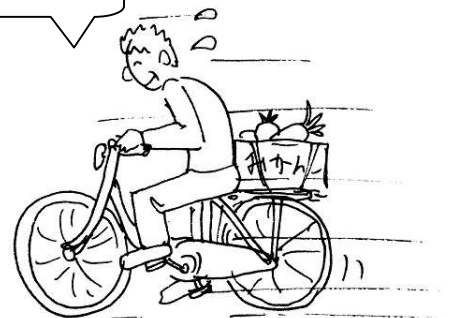
ガソリン不足も大きな問題でした。この問題は、ホームの毎日
の生活支援においても、大きな妨げになりました。

公用車は、村田町の御配慮で、ある程度稼働させる事が出来
るようになりましたが、 職員の自家用車は、ガソリン不足が深
刻で、何人かの職員は、一度帰宅してしまうと もう出勤して来
れない！という状況になってしまい、職場への泊まりこみを余
儀なくされました。

そんなわけで、通勤や、仕事で近場に出掛けるときは、極力車
を使わないようにしましたが、そんな時、地域の方が貸してくだ
さったスクーターや自転車が、大活躍しました。本当にありが
うございました。

通勤事情

ありがたい！



色々な支援、ありがとうございます。

その他にも、利用者様の体調を心配して駆けつけてくださった、南桜ホームケアクリニックの齋藤先生、
桜町薬局の轡先生、鉤取歯科医院の高橋先生、吉田歯科衛生士さん、ありがとうございました。

また、村田町さん、蔵王町さん、ワンファミリー仙台さん、デンタルビジョンさん、御家族のみなさんなどか
ら、水や食料、新鮮な野菜などを沢山いただきました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

たのしいあいこも

【インフィクション】

「まーさん、やるう！！」

リリーフランキーササキ 作



職員紹介!



伊藤文子(いとうふみこ)

デイサービスからの移動です。「認知症ケア専門士」の有資格者。ルックスに合わず、「村田弁」を駆使した利用者様との会話が◎です。好きな言葉「ありがとう」

よろしくお願ひします!



我妻孝太郎(あがつまこうたろう)

老健あいやまからの移動です。スタートダッシュの良さと行動力が武器! 時折見せるフライングもまた、若さの魅力です。好きな言葉「元気!」

遅くなりましたが、移動になってからまだ新聞に登場していなかったスタッフを紹介させていただきます。

初めての男の職員さんだね〜 うれしいねー



編集後記

震災の直後は、ライフラインが途絶えた中でも、何とか今までどおりのホームの生活を維持しようと焦っていた感がありました。しかし、ある利用者様から「仕方ないさ。無い物は無いんだから。もっと大変な人もいるんだから、私は大丈夫だよ。」と言われて、やっと落ち着いて考えられるようになりました。深い人生経験を積まれている利用者様の言葉や姿に、力をいただいていることに感謝しながら、これからも職員一同明るく元気に頑張りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。(T.SASAKI)

